

## モニタリング手法の選択と設計：クマ類編

株式会社 野生動物保護管理事務所

中川 恒祐

日本に生息するクマ類は、北海道のヒグマと本州・四国のツキノワグマの2種である。近年、一部の個体群を除き、全国的にクマの分布域は拡大しており、人の生活圏のすぐ近くまでクマが迫っている状況にある。他獣種に比べると、クマ類の農林水産業の被害量は多くはないが、生活被害や人身事故の発生がクマの保護管理を困難なものにしている。

多くの都道府県においてクマ類の特定計画では、被害防止と個体群の安定的な維持が目的となっているため、被害状況と生息状況がモニタリングの評価対象となってくる。しかし、クマ類にはその生態的な特徴に起因して、生息密度指標が取得しにくいなどのモニタリング上の問題がある。そのため、クマ類をモニタリングするために、様々な手法が考案され、採用されてきている。モニタリング対象は、被害把握、生息密度指標については個体数の把握、分布域の把握、自然環境の把握、個体群の状況把握など多岐に渡る。本講義では多数あるクマ類のモニタリング手法の中から代表的なものを選別し、その調査方法や特徴、実施上の注意点などを紹介する。

調査 スケール	情報の収集・調査手法	モニタリング対象				
		被害	密度指標/ 個体数推定	分布	環境	個体群の状況
広域	出没情報の収集	○	○	○		
	捕獲情報の収集	○	○	○		
	出猟カレンダー調査		○	○		
	農林水産業被害調査	○				
	痕跡調査		○	○		
	堅果類の豊凶調査	○	○		○	
広域・狭域	捕獲による標識再捕獲法		○			
狭域	カメラトラップ調査		○	○		
	ヘアトラップ調査		○	○		
	直接観察調査		○	○		
-	問題個体の把握調査	○				
	人身事故調査	○				
	捕獲個体の分析					○